

幼珠連通信

全国幼児珠算教育連盟

発行人 大西信二

放射能汚染から命を守る最強の知恵

会長 井上 文克

昭和20年8月、太平洋戦争の末期、私は海軍兵科対空少尉として、奄美大島瀬相にあった大島防備隊井上隊長として勤務していた。したがって、広島・長崎の原爆については司令部情報として、刻々と伝わっていた。

終戦となり9月下旬に帰宅する時も、広島駅を通った。その後、昭和40年代・50年代には度々広島原爆記念館にも足を運んだが、原子力については特に学んでいなかった。今回の東日本大震災での福島原子発電所の事故で、それも友人から『放射能汚染から命を守る最強の知恵』著書 阿部一理先生を紹介され、その上に前記題名の著書を頂戴し、放射能汚染の現況の一部が理解できるという誠にお恥ずかしい自分に気づいた。

この度のご縁で先生が本に書いて下さった「食は生命なり」のお言葉が身に染み、今日の食の本当の姿を学び、皆さんに知っていただくことが、これからの生き方であると知った。

著者の阿部一理先生は日本を放射線被曝から守る会の会長で、日本珪素医科学会理事、民間療法研究家、1944年北海道網走生まれ。虚弱な幼少年期を送り、虚弱体質のため、高校1年生15歳の時からそろばん塾を始め、18歳で高校を卒業後上京。再び、そろばん塾を始め、「阿部教育センター(総合的な学習塾)」を経営。28歳の時には塾生1800名、講師30名であった。当時もまだ虚弱体質であり、塾生の母親から日本より欧米で有名であった食養指導者の桜沢如一先生の主宰する「日本C1協会」を紹介され入会。玄米菜食の偉大な効力を学び、体調を回復。自然医食に専念すべく、塾を弟に全てを任せて研究して実践に邁進。その時に『死の同心円―長崎被爆医師の記録』長崎文献社刊。が縁となり、著者の秋山辰一郎先生を訪ね、原爆について学ぶ。その後、「信ずるな、疑うな、確かめろ」を信条として、食事療法、民間伝承医学などを研究。講演回数は一万二千回を超える。著書に、『古くて新しい伝承療法』『水の最後の選択』(メタモル出版)など。

私が今回学んだ、放射能汚染から命を守る最強の知恵、即ち、生活五原則をご披露する。
①玄米を主食とする。そして、発芽モードの玄米を摂る。
②味噌や漬物などの発酵食品を摂る。
③塩または海草でミネラルを摂る。
④精製した白砂糖・添加物・農薬を避ける。
⑤動物性蛋白、即ち、肉・牛乳は摂らない。の五つを実行することが、放射能汚染から命を守るという、最強の知恵であると学ばせていただいた。只今、実行中。詳細はまず、今回の出版物から学び、実践されることを心から願っている。

紹介図書 書名「放射能汚染から命を守る最強の知恵」発行：2011年5月21日

著者：阿部一理・堀田忠弘 発行所：(株)コスモトゥーワン

〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-39-6-8F ☎03-3988-3911 FAX03-3988-7062

珠呙

しゅげん -78-

生徒への言葉には配慮しましょう。

私達は教室で生徒に話す言葉の中には留意しなければならない言葉があります。

その一つに両親や学校の先生についての語る言葉、また欠席している友達について語る言葉には 特に 気をつけて話さなければなりません。

「口は^{くち}人を傷つける^{きず}斧」とか、「三寸の舌に五尺の身を亡ぼす」とか、「舌の剣は命を絶つ」また「吐いた唾は呑めぬ」や「口から生まれて口に果てる」・「口は禍の門、舌は禍の根」。これらはすべて「言葉は慎まなければなりませんよ」ということを教えたことわざです。偉人・賢人の学者も同様の主旨を述べた言葉がたくさんあります。逆論すれば、それだけ、不用意に口にした言葉によって不幸を招いたり、評価を落としたりする人が多いということでしょう。

私達の教室で指導する方法について 学校で指導されている指導方法と異なる場合があったり、また、各家庭での子どもに対する両親の教育方針も様々であり、教室の指導方針と隔たりがある場合もあります。

また、他塾から入会した生徒の計算方法が異なることもあります。すべてを全面的に否定するのではなく、違いも認め、さらに、教室での指導方法の良き点を説明して各教室の運営方針を進めることが大切なことでしょう。仮に、とんでもないことであっても、頭ごなしに否定することのないように心得たいものです。

中でも大事なことは、その場にはいない生徒や退会した生徒については批判をしない、悪口を言わないことでしょう。それを聞いた生徒はもとより、伝え聞いた生徒から教室に対して良い思い出は消え去り、そろばん学習への否定となってしまいます。

生徒だけではなく、一般に、その場にはいない人を批判したり悪口を言ったりすることは、誰にとっても容易なことであり、その時の気分やその場の雰囲気によって、ついつい口から出てしまいがちです。

しかし、人への批判や悪口は、それを口にしたことによって得られるものは何もありません。唯、ご自身の値打ちを下げ、人格の評価が下がり、それまでの人間関係まで壊れてしまいます。ニーチェが「話題に窮したとき、人を批判しないものは稀はある」といっています。私達、教室を運営する者にとって、気をつけたいことです。

2011年度近畿小中学生珠算競技大会開催のご案内

大商分銅杯「近畿小中学生珠算競技大会」を継承して、昨年、珠算教育関係者で大会運営委員会を設立し、2011年度近畿小中学生珠算競技大会を守口門真商工会館で開催。お陰でもって継続実施する所期の目的を果たすことができました。これも、関係各位の競技大会に対する熱意の表れでありご同慶の至りです。

本年度も下記の通りの大会要項とおり、会場の都合で参加人員は小学生250名、中学生150名を定員として9月1日から受付けます。

総合競技の問題程度として、小学生は日商2級問題を、中学生は1級問題を8分、暗算種目は日珠連乗暗算、除暗算、見暗算2級を小学生、1級問題を中学生で2分での競技です。また、本年度から特別競技として伝票算競技を導入し、従来のフラッシュ暗算とともに特別競技として二種目を行います。伝票算競技も小学生が2級検定問題、中学生が1級問題を5題ごとに、制限時間4分、2分と短縮して、伝票算一位をめざす競技です。また、大会名物の種目別競技は、8種目から2種目を選択して出場し、各種目別チャンピオンを競います。

午前は総合競技、午後は特別競技と種目別競技が行い、競技会の神髓を会得できる本格的な珠算競技大会です。

2011年度 近畿小中学生珠算競技大会

主催：近畿小中学生珠算競技大会運営委員会

後援：日本商工会議所・日本珠算連盟・(社)全国珠算教育連盟・(社)全国珠算学校連盟
大阪商工会議所・守口門真商工会議所・大阪珠算協会・兵庫県珠算連盟・大阪府珠算協会

時：11月3日(祝・木) 午前10時30分開会 午後 5時 閉会予定

所：守口門真商工会館 ◇小学生会場：2F ◇中学生大会：3F会場

参加資格：近畿各地の小学生・中学生。

競技：総合競技・特別競技(伝票算・フラッシュ暗算)・8種目種目別競技

参加申込：9月1日から15日まで(但し、定員に達したら締め切り)

参加料：1名2000円(郵便振込：00910-8-158376)

大会要項・申込用紙はURL:<http://www.osakasyuzankenkyusyo.com>掲載

※当大会の詳細につきましては、下記の運営委員へお問い合わせください。

近畿小中学生珠算競技大会運営委員会 (敬称略・五十音順)

大西 信二(日珠連・守口門真)・岡田 良章(全珠学連・大阪府)

沖田 伸明(日珠連・北大阪)・金本 和祐(日珠連・大珠協)

喜来音二郎(日珠連・兵珠連)・澤田 悦子(全珠連・大阪府)

鈴木 宗一(全珠連・兵庫県)・竹添 辰彦(日珠連・東大阪)

益田 明(日珠連・大珠協)・的場 弘司(日珠連・箕面連)

伝票算段位検定を実施

大西 信二

「珠算1級合格者として採用した新入社員が小切手帳の計算の仕方が解らない」という言葉を学友から聞き、日商珠算検定が9年前、検定種目から伝票算検定を削減したことを思い出す。

実社会でも活用される珠算でなくてはならないと痛感し、伝票算を再び検定種目への提案、昨年度から伝票算検定試験として、日珠連傘下の近畿珠算団体連合会が主催して、伝票算1級・2級・3級検定を実施しました。

日珠連近畿各地の珠算団体のご理解とご支援を得て、昨年度は2652名の受験生でもって実施、初年度の企画としては良いスタートをきることができました。

さらに、伝票算計算技能を一層の向上させるために、本年度から伝票算段位検定試験を年3回を実施することになりました。

今年度、初回の伝票算段位試験には217名が受験、満点十段1名、十段2名、九段位5名、八段位1名、五段位2名、四段位8名、三段位26名、準三段20名、二段位23名、準二段32名、初段位37名、準初段30名という合格者が生まれました。

段位の合格者には1、2、3級の合格者と同様、合格証書とともに合格シールを交付することになりました。段位の場合は準初段・初段・準二段・二段・準三段・三段・四段・五段・六段・七段・八段・九段・十段・満点十段の合格シールが14種類もあり、全て色分けて作成し、十段・満点十段の合格シールには格を上げるために、透かし入りのシールを作成して、受験者に高い目標をめざしていただけるように配慮しました。

また、合格者へのご褒美として、「3級合格文鎮」(黄色)・「2級合格文鎮」(緑色)「1級合格文鎮」(青色)・「準初段～三段合格文鎮」(黒色)「四段～十段合格文鎮」(朱色)の5種類の合格文鎮を準備しました。有償となりますが、各連盟からの申込で送付するよう準備をしました。伝票算検定合格者には喜んでいただけるものと確信します。

また、今回の試験から門戸を拓げ、近畿地域以外の日珠連傘下の他府県からの参加を受け、1、2、3級と共に段位の伝票算検定試験を施行いたしました。第4回伝票算検定試験は、段位217名、1級218名、2級294名、3級419名 合計1148名の受験者数で各地で試験を実施することとなりました。

珠算を練習する生徒にとって「伝票算検定」という新しい目標ができ、さらなる学習意欲を高める材料となったり、また 伸び悩んでいた生徒にとっては選択肢が増え、練習する習意欲を喚起させることと期待しております。

珠算を学ぶ生徒が、将来、実社会において、伝票や帳票類を左手の人差指と親指でめぐって計算できる動作を身につけておいてほしいものです。右手はパソコンであれ、電卓であれ、そろばんであれ、同時に計算できる左手の活用を促すことを珠算教育の一つに再び、定着してほしいのです。そろばん学習は、暗算と共に実社会に於いても活用できるそろばん学習であってほしいのです。

(伝票算検定試験委員長)

そろばんで頭の体操

シリア層なら一度は使ったことがある「そろばん」。目や指を使い、集中力も必要なため、脳の活性化や認知症予防の効果が期待されている。頭は使わないと固くなる一方。そろばんで頭の柔軟体操をしてみてもは。 東京新聞の6月1日(水)から転載。

「1から50までの数を、順に足して下さい」パチパチパチ……。東京都小平市の市福社会館。「右脳いきいきクラブ」を主宰する佐々木裕治さん(71)の掛け声に合わせて、六十代～七十代の男女18人が一斉にそろばん珠をはじき始めた。

同クラブは、そろばんを通じた生涯学習をめざしている。2006年に誕生し、会員は60歳以上の86人。入会順にクラスを4つに分けてある。各クラスとも週一回開かれ、いつも盛況だ。

二年目のクラスに通う白沢久美子さん(67)＝西東京市＝は「年を取ると、注意力が散漫になりがち。いつまでも元気な脳でいたいから」と始めた動機を語る。同じく二年目の竹元光子さん(68)＝小平市＝は集中力が増したという。「途中であきらめがちだった数独パズルがどんどん解けるようになった」。六年目の吉田至郎さん(75)＝小平市＝も進歩を実感している。「最初は指が動かず、苦労したが、今は2桁の暗算ができるようになった。頭がクリアでいられるのはそろばんのおかげ」笑顔を見せる。

上達者は暗算の時、そろばんの珠の配列を頭に浮かべて計算する。会員になって2、3年もすれば、この計算方法を使えるようになるという。「主に右脳が担うイメージ化能力がアップしたと考える」と佐々木さん。

もちろん年を重ねているため、上達に限界がある。実際、三桁の暗算まで進める人は少数派という。でも佐々木さんは「現状維持目的で続けただけでも、老化の進展に歯止めをかけている」と話す。

そろばんメーカーのトモ工算盤(新宿区)は六年前から「高齢者予防講座」を開いている。藤本トモ工社長は「単純な計算や指を使うと脳の血流量が増え、予防効果が期待できる」と講座の意義を語る。

講座は一回60分。2けた～5けたの数の計算だけでなく、珠の配列を一秒間だけ見せて覚えたかを問うゲームなどをメニューに加えている。講師役の小玉博雄さんは「楽しみながらプログラムで、『やればできる』という自己承認欲望を満たすことができる」と推奨している。講座に合わせ、お年寄りにとって使いやすいそろばんも開発した。けた数は5つで珠の直径も普通サイズの1.4倍だ。

脳性理学が専門で、そろばんの効能に詳しい国際総合研究機構の河野貴美子副理事長は「高齢者の脳を健康に保つために、そろばんは大変、有効」と指摘、一人でコツコツではなく、みんなで楽しく、少しでも進歩を感じつつやると、認知症予防にもつながると考えられます」と話す。 東京新聞 2011年(平成23年)6月1日(水)